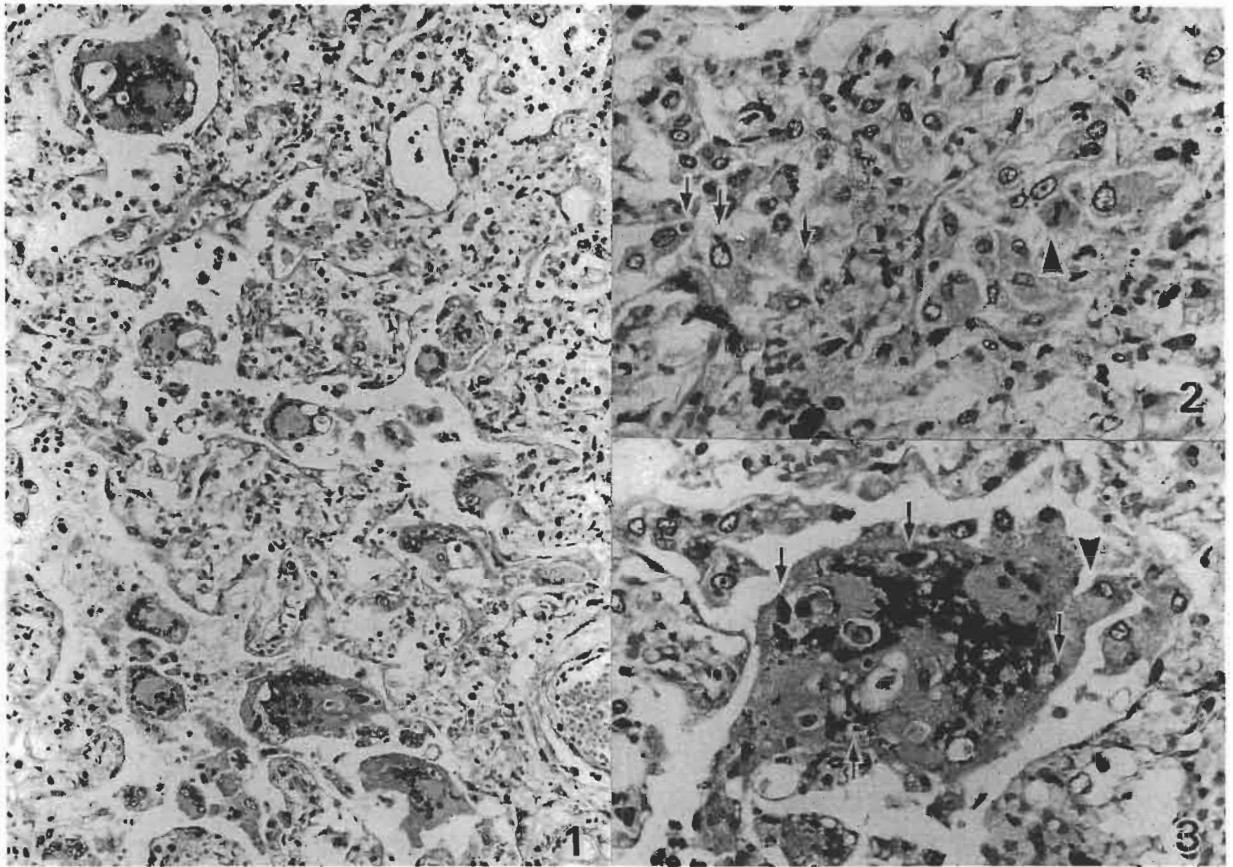


犬の肺

日本生物科学研究所出題 第33回獣医病理学研修会標本No.590



動物：犬，シベリアンハスキー，雌，80日齢。

臨床事項：某市内のペットショップで微熱，元気が及び食欲の減退，発咳，下痢などの症状を示し約1週間の経過で死亡する子犬(2.5-3.5か月齢)の疾病が発生し，およそ半年の間に飼育犬の約2.5%(50頭)が発症・死亡した。症例はそのうちの1頭で，斃死して約15時間後に剖検された。

肉眼所見：全身リンパ組織の高度萎縮，気管支肺炎，小腸粘膜の斑状出血などが著変であった。

組織所見：主要病変は細気管支～肺胞に存在した。最も特徴的な変化はII型肺胞上皮細胞の増生と剥離，肺胞内での合胞体形成であった(図1，×80)。肺胞は上皮の剥離により虚脱したり或いはそれらを容れて拡張し，肺胞壁には泡沫化したマクロファージが散見された。剥離した肺胞上皮の多くは肥大した胞体と大型核並びに明瞭な核仁を有し，核分裂像も散見されることから剥離前・後に活発に増殖しているものと考えられた(図2，矢頭は核分裂像，矢印は封入体，×320)。合胞性巨細胞は，核が数個から百個前後にも及び，それらは細胞質周辺に馬蹄形或いは花冠状に配列したり，胞体の中心部に集合して異物巨細胞に類似するもの，胞体中心部或いは辺縁部に不規則に配列するものなど大きさ，形態はさまざまであ

った(図3，矢頭は剥離肺胞上皮の融合，矢印は封入体，×320)。また核濃縮・崩壊と細胞質の空胞化や萎縮・濃染を来した変性過程にある合胞体で肺胞内に滲出した好中球により侵食を受けているものが見られた。これら合胞体の殆どにおいて，好酸性で微細～粗大顆粒状・滴状，棍棒状などの形態を示す封入体が細胞質ならびに核内に多数認められた。封入体は二次気管支，肺胞管などの上皮細胞，II型肺胞上皮，間質結合組織の線維細胞など，肺組織構成細胞の殆どにおいても頻繁に観察され，それらには免疫染色により犬ジステンパー(CD)ウイルス抗原が検出された。肺胞内にはこの他好中球，マクロファージ，線維素などの滲出があり，二次感染菌と思われる細菌集塊も存在した。

診断：CDに見られた巨細胞性肺炎。CDでは二次感染菌により修飾された化膿性気管支肺炎として認められることが一般に多い。本例に類似する病像は麻疹肺炎で報告されており，その場合患者のウイルスに対する特異抗体産生能に障害があり，高度な viremia が持続することによる組織の特殊な反応病変と解されている。またアザラシジステンパーの肺病変では巨細胞形成が特徴とされている。